

農村RMOと新規就農者移住者促進を 柱に地域を守る！

5/24 第149回 農山漁村コミュニティ・ビジネス・オンライン・セミナーを開催しました。講師の柳沢久美さん、そして本セミナーにご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



講師：加茂谷RMO推進協議会 柳沢久美 氏（徳島県阿南市）

2024年5月24日(金) 16:00～18:00

参加費無料 参加方法：オンライン（ZOOM）システムのみ

分析は、物事を小さく分けて、考え対策を講じること。統合は、まとめて一つにすること。

論理的に事業を行う際によく言われるのは、この分析だ。しかし世の中は複雑にさまざまな要素・原因・事象が絡み合っている。物事の表面には表れていない事柄が、その課題の原因等のバラバラな要素と結びついている場合も多い。質的統合法（KJ法）は、さまざまな要因要素をまとめていくこのだ。そしてそこから浮かび上がってくる原因、解決策を創造的に発想（問題の本質を把握）するものである。阿南市加茂谷地区で実施した都合3度にわたる地域再生寄り合いワークショップは、質的統合法（KJ法）を随所に活用しつつも、参加者は質的統合法（KJ法）を全く知らなくても問題・課題の本質を把握することができるのである。

●本セミナーの主なポイント

講演を聞いて、事務局が感じた取り組みのポイントを列挙

- ・現状を正しく認識する。村の将来人口推移を専門家に計測し対策を検討
- ・具体的な移住者増加目標を立てる（目標は30代、40代夫婦子ども2人 計4人を5組）
- ・課題を整理し、解決アイデアを皆で考え、合意形成する。
- ・実行計画をもとに、皆で取り組む。
- ・地域の存続、農業の維持には、若い世代の移住が重要
- ・自ら、移住フェア等に参加し、積極的に呼び込む。移住者のニーズに寄り添い人脈も駆使
- ・計画の進捗管理、次の課題への準備と日々の協議会の会合でも状況を密に情報交換
- ・参考になる取り組みには、視察や講演会なども開催

・過去に3度の地域再生寄り合いワークショップにより、その都度実行計画を作成し事業に取り組む

徳島県南東部を流れる那賀川の中流域に点在する10町からなる阿南市加茂谷地区は、地域を盛り上げる活動（イベント）や農業の新規就農者の募集に地域住民で作ったNPOが自ら宣伝・誘致活動に向くなど、地域活動が盛んな地域です。

また、加茂谷地区は気候、地質的に恵まれており良質な農産物を生産しています。

少子化・高齢化の他に、地域の暮らしに欠かせない、食料品の店舗や交通機関の縮小するなかで、地域住民皆で考え・行動しようと様々なイベントや特産品の販路開拓など取り組みも自主的に進められてきました。

こうしたなか、農村集落の暮らし、農業・農地を守り、地域資源を有効に活用する農村RMO組織の立上げが農林水産省で事業化され、加茂谷地区に於いても、農村RMO組織の立上げ、とこの組織を核にした地域の活性化に取り組むことになりました。

加茂谷での農村RMOの取り組みの現場について、詳しくお話をお伺いします。

農村RMO推進協議会の中核メンバーであるNPO加茂谷元気なまちづくり会が推進してきた取り組みには、「すきとく市」という店舗型産直市があります。

高齢農家などこれまでの流通形態には無かった少量出荷が可能で大根1本、ほうれん草1束から出荷可能であり、出荷商品の値段も生産者が決めて、販売先の地域店舗も自分で選べます。もちろん、出荷した産品には、自分の名前のラベルがついていますので、大阪の親戚がいるこの地域へと出荷先も指定できるシステムです。現在は県内のみならず関西のサンプラザ、トップワールド、関西スーパーマツヤスーパーなど約160店舗に出荷し翌日には店頭と並ぶという新鮮さを売りにして地域の農業を支えています。 ※「すきとく市」については、徳島大学大学院社会産業理工学研究部講師 橋本直史氏の「食品スーパーのインショップと連携した住民組織による野菜販売の取り組み 徳島県阿南市の加茂谷元気なまちづくり会と株式会社キョーエイすきとく市の事例」に詳しく紹介されています。独立行政法人 農畜産業振興機構

https://vegetable.alic.go.jp/yasaijoho/senmon/2209_chosa1.html

・高齢化、人口減少、農業の衰退の課題に向き合いまちづくり協議会を設立

平成24年度

加茂谷地域の各代表者が集まり、地域の将来像についてワークショップで検討する。



過疎化が進行する加茂谷地域の活性化に向けて地域住民が自発的に考え始めた！

・アイデアの実行計画を合意形成で作成し事業に取り組む

アイデアの実行計画

優先度の評価順位	アイデア項目	難易度	実現目標時期			役割分担・主体			着手順位	備考
			早く(1年以内)	2~3年以内	ゆっくり(4~5年以内)	住民	行政等と協働	行政		
1	加茂谷HPの立ち上げ	C	○			○	○		1	
2	ネット活用による空き家の再利用	B		○		○	○		2	NPOの結成
3	加茂谷産直市	B		○		○	○		5	
4	加茂谷HPによるネット販売	C	○			○	○		2	生産者との協働
5	小学校を起点とした運路道体験ルート作り	C	○			○	○		4	
6	婚活	C	○			○	○		3	
7	遊休農地のリース制度	B			○	○			6	NPOの結成
8	小学校の活用(お運路さん宿泊)	A			○	○	○		8	
9	小学校の活用(住民のたまり場)	A			○	○	○		8	
10	地域おこし協力隊の結成	B		○		○			7	

実現に向け活動を開始！！

平成24年12月

～個性とチームワークによる住民主体のむらづくり～

「加茂谷元気なまちづくり会」を設立

遍路道や農業などの地域資源を
活用した地域活性化策を検討する組織



組織体制



・自ら就農マッチングに参加し声をかける！



・移住推進の空き家対策

移住・定住を進めるうちに課題も...

借りられる空き家がなくなってきた。
空き家自体は加茂谷内に約100軒存在するのだが...



・2度目のワークショップでさらに活動を推進する

特定非営利活動法人加茂谷元気なまちづくり会
令和1年7月8日法人登記

令和1年6, 7, 8月に「寄り合いワークショップ」開催

更なる課題の抽出



各地区より約70名の参加で話し合い

・公共交通機関の撤退、減便等による高齢者地域住民の足をボランティアで支援

加茂谷元気なまちづくり会 実行計画

5班 地域住民を移送する新しい仕組みづくり

令和3年
5月27日
スタート

ご近所ドライブパートナー



モデル事業実施中
阿南市
加茂谷元気なまちづくり会

対象者：6町の要支援Ⅰ・Ⅱ、事業者が認めたもの
対象者：13名、ボランティアドライバー：11名

・3度目のワークショップで、農村RMOのビジョンを作成

農村RMO（地域運営組織）の取組み

事業計画策定のためのワークショップを実施（全3回）

第1回ワークショップ（10/28） 第2回ワークショップ（11/25） 第3回ワークショップ（11/25）



託児所を開設して
若者世代の参加を
促進

本資料は講師の活動及び本セミナーをPRするため講演資料の一部（代表的な部分9ページ）を抜き出しましてまとめています。セミナーでは、より詳細、より広範囲に具体的内容を説明しています。セミナー終了後**参加者限定**で資料（61ページ）を配信しています。